臨川小だより

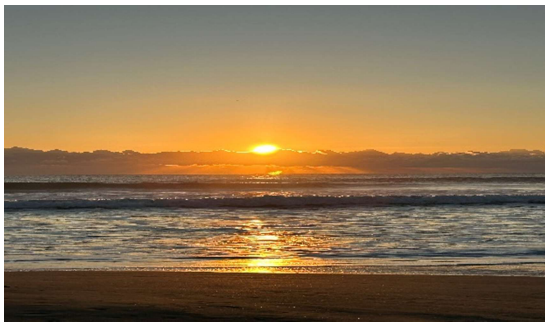
１月号

令和６年１月９日
渋谷区立臨川小学校

新年を迎えて

副校長　安田明子

冒頭にあたり、この度の能登半島地震、羽田空港での飛行機事故で亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、被災地域の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。



今年の干支は甲辰、新しいことを始める好機であり、これまで準備してきたことが形になる年と言われます。臨川小学校においてもさらに飛躍の年となることを願っています。

冬休みは各ご家庭で、お節料理やお年玉、書初めやお正月遊びなど、日本の伝統文化を楽しまれたことでしょう。

その一つである凧揚げについて、私には教員時代の懐かしい思い出があります。今から３０数年前、多摩川河川敷近くの学校に赴任していた時のことです。当時は学校で、和紙と竹ひごを組み合わせた凧を作り、土手で揚げるという行事がありました。子供たちは思い思いの絵を描き、糸の長さや付け方を調節して高く揚がるように工夫をしたものです。手作りの凧が天高く舞ったときの嬉しさは格別でした。昭和の長閑な時代の思い出です。

ところで、凧の「タコ」はもともと「イカ」だったことをご存じでしょうか。凧は中国から遣唐使船に乗って日本に伝わり、江戸時代までは「いかのぼり」と呼ばれていたとのことです。確かに長い脚２本の姿はイカのようですね。江戸の町ではいかのぼりが非常に流行り、江戸の空いっぱいに揚がっていたそうです。ただ、高く揚げようという人々の気持ちが災いして、喧嘩やトラブルがたくさん起こってしまったため、幕府からは「いかのぼり禁止令」が出されたのです。それでも揚げたい江戸っ子たちが「いや、これはイカじゃなくてタコなんだよ。」と言い張って凧揚げを続け、それ以来、いかのぼりはたこのぼりになったとのことです。実際、現在でも「いかのぼり」と入力検索すると、「凧のこと」と出てきます。

一つの言葉も探究すると、歴史的背景や興味深いエピソードなど、新しい発見や驚きがあります。関心をもった事柄について学びを広げ、掘り下げた知識を自分のものにするという学習は楽しく、自身の成長も感じられるものです。

渋谷区では今年の４月から、探究的な学び「シブヤ未来科」の学習が本格実施となります。自分が興味をもった人・モノ・ことにかかわる問いを立て、各教科の見方・考え方に基づいた探究を進め、仲間と協働して問題解決し新しい価値を創造するという、子供たちが学びを創る授業です。地域の方や企業等のご協力のもと、体験活動を通した総合的な学習を行うことにより、変化の激しい今後のグローバル社会で活躍するための学力を身に付けていきます。